

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

税は私の恩人

大川市立大川桐英中学校

二年 山口 真緒

「バタッ」

ある日突然私は倒れた。それは私が小学六年生の夏休みのことだった。朝、猫にご飯をあげるためベッドから起きあがった。すると急に私の目の前は真っ暗になった。私が目をあけたときにはまったく知らない所に寝ていた。横を見ると、お父さんが涙目で私の名前を呼んだ。とても心配していたから、私は最高の笑顔でピースした。

私はそのまま病院の中へ運びこまれた。たくさん大きな機械を使い、私の体は機械だらけだった。たくさんの人が私に「大丈夫だからね」と声をかけてくれた。でも私は病院が怖くなかった。なぜなら、小さいころから体が弱かったからだ。私は生まれる前、お母さんの体調が急に悪くなり、お腹にいる私の命が危ないと帝王切開で生まれた。お医者さんが心配するほど私の体は小さかったとお母さんに聞いた。その後も私は体が弱く肺炎で入院したこともあった。だから私は病院は怖くないし、第二の家のような場所だった。

大きくなった私は、そんな命の恩人である病院に興味を持った。すると私は中学二年生の道德の授業のときだった。それ

は私にとって驚きの事実だった。

「病院は税金でできている。」

税金のことは詳しくは知らないが、知っていた。橋、道路、学校、市役所など、国民の生活をよりよいものにするために使われるお金ということは知っていた。だが、病院には、いろんな名前がある。学校や市役所などはその地域の名前が使われているから税金でできていると思っていた。病院は税金でできているということは私は税金に救われたということになる。また税金も国民が出し集めたお金である。

もし税金がなかったら、救急車も呼べず、なんらかの障害になっていたかもしれない。私はすぐ病院で検査したから病気が見つかった。しかし、もし税金がなかったら、病院自体がないため、病気があるのかすらも分からなかっただろう。

今、税金が上がっている。「税金なんていらない」と思う人もいるかもしれない。でももし税金がなかったら、想像できないほど醜い世界になってしまうと思う。道路は壊れ、道はゴミだらけ、犯罪者は動きまわり、たくさんの人々が大変な思いををすると思う。

もう一つ日本で大きな問題になっている少子高齢化。もし税金がなかったら、救急車を呼べないため、たくさんの人が命を落とすかもしれない。病院がなくなるから、安全に出産できなかったり、産まれても病気で早くに命を落としてしまいかもしれない。

このように、私たちは気づかない間にたくさん税金に救われている。

私は、命の恩人でみんなを支えている税金に感謝しながら、生きていくと決めた。